

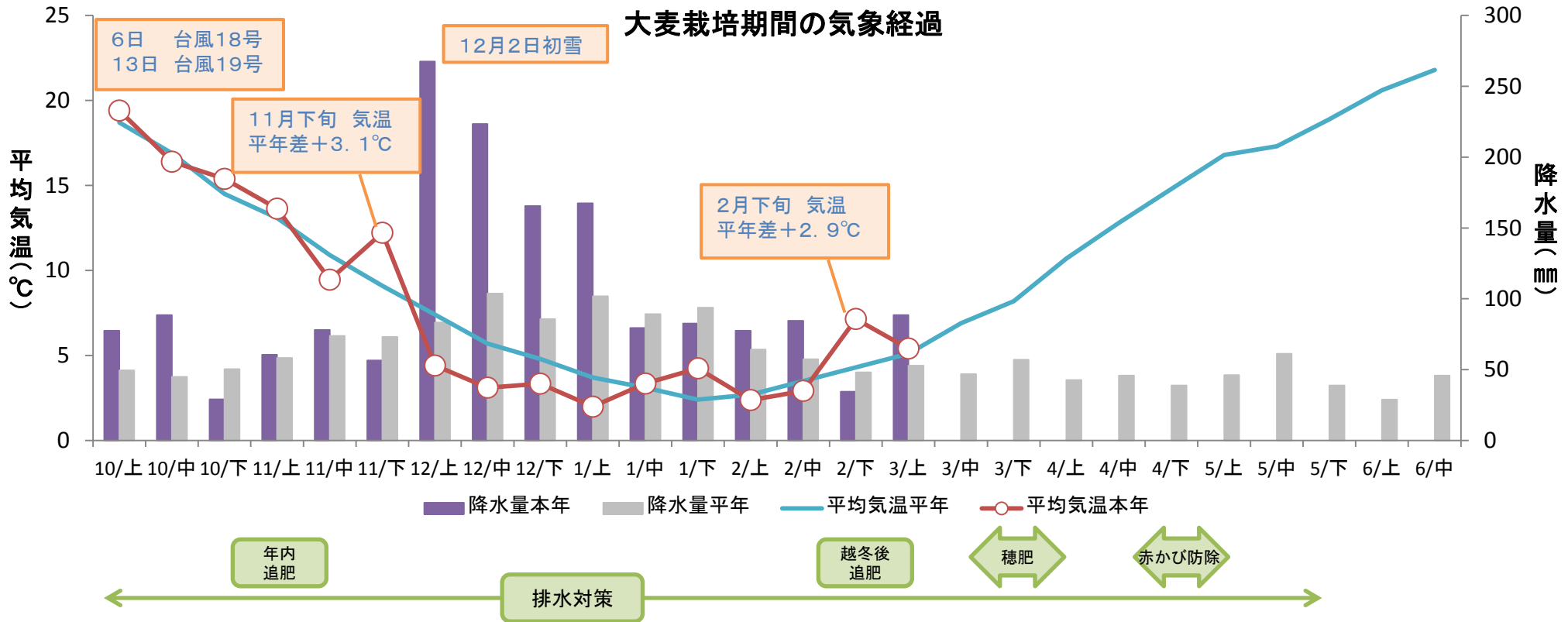
稲作情報 No.28

〔大麦栽培管理〕

水田農業レベルアップ委員会技術普及部会（農業試験場、生産振興課、JA経済連、主要農作物振興協会）

[http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku.html](http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku/inasaku.html)

- ・排水溝に水が溜まったり、排水溝が崩れている圃場が見受けられます。
- ・溜まった水が速やかに排水されるように、排水溝、排水口を確認して手直しをしておきましょう。
- ・分施肥体系で穂肥を施用する場合は、茎数や葉色を確認して施用時期と施用量を判断しましょう。



- ・現在の生育は、草丈は県北部では昨年よりやや短く、県南部では長い傾向。
- ・茎数は一部の地域を除き昨年より少ない。葉色は昨年と概ね同等。

【今後の栽培管理】

作業	作業の注意点																																				
排水対策 確認！	<ul style="list-style-type: none"> 排水溝に水が溜まっていないか、溝が崩れて水が流れるのを妨げていないか確認する。 水が溜まっていたら、排水溝に落ちて水の流れをせき止める土をさらう、枕地に畝を作った場合には畝を切って圃場内部から排水口に直接繋がる排水溝を追加、するなどして速やかに排水されるように努める。 排水口は必ず額縁排水溝の底面より下にする。一般に排水口は水稻の水管理用で高いことが多く、切り下げる必要がある。 																																				
越冬後の追肥 (分施体系)	<ul style="list-style-type: none"> 分施体系で施肥している場合には、消雪直後または平均気温が4～5℃に達する頃に越冬後追肥をする。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>播種法</th> <th>草丈(cm)</th> <th>茎数(本/m²)</th> <th>施用量(N kg/10a)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">条播</td> <td rowspan="3">20cm以下</td> <td>600本未満</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>600～800本</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>800本以上</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>20cm超</td> <td>—</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">散播</td> <td rowspan="3">20cm以下</td> <td>600本未満</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>600～800本</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>800本以上</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>20cm超</td> <td>—</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>			播種法	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	施用量(N kg/10a)	条播	20cm以下	600本未満	4	600～800本	3	800本以上	2		20cm超	—	2	散播	20cm以下	600本未満	4	600～800本	3	800本以上	2	20cm超	—	1						
播種法	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	施用量(N kg/10a)																																		
条播	20cm以下	600本未満	4																																		
		600～800本	3																																		
		800本以上	2																																		
	20cm超	—	2																																		
散播	20cm以下	600本未満	4																																		
		600～800本	3																																		
		800本以上	2																																		
	20cm超	—	1																																		
穂肥 (分施体系)	<ul style="list-style-type: none"> 1回目の穂肥は茎立期に茎数や葉色を確認して施用量を判断し、幼穂長が7ミリになったら施用する。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>播種法</th> <th>3葉以上の茎数(本/m²)</th> <th>葉色(葉色板)</th> <th>施用量(N kg/10a)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">1回目</td> <td rowspan="2">条播</td> <td rowspan="2">500本以下</td> <td>5.5以下</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>5.5超</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">500本以上超</td> <td>5.5以下</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>5.5超</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">散播</td> <td rowspan="2">400本以下</td> <td>5.5以下</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>5.5超</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">400～600本</td> <td>5.5以下</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>5.5超</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">600本超</td> <td>5.5以下</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>5.5超</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">3葉以上の茎数は穂数と同等になる見込み</p>			区分	播種法	3葉以上の茎数(本/m ²)	葉色(葉色板)	施用量(N kg/10a)	1回目	条播	500本以下	5.5以下	3	5.5超	1	500本以上超	5.5以下	2	5.5超	1	散播	400本以下	5.5以下	3	5.5超	1	400～600本	5.5以下	2	5.5超	1	600本超	5.5以下	1	5.5超	0
区分	播種法	3葉以上の茎数(本/m ²)	葉色(葉色板)	施用量(N kg/10a)																																	
1回目	条播	500本以下	5.5以下	3																																	
			5.5超	1																																	
	500本以上超	5.5以下	2																																		
		5.5超	1																																		
	散播	400本以下	5.5以下	3																																	
			5.5超	1																																	
400～600本		5.5以下	2																																		
		5.5超	1																																		
600本超	5.5以下	1																																			
	5.5超	0																																			

【今後の栽培管理】

作業	作業の注意点												
穂肥 (分施肥系)	<ul style="list-style-type: none"> 2回目の穂肥は1回目の10～15日後に施用する。 施用が遅れて止葉抽出期以降に施用すると、麦粒のタンパク含量が上がり硝子質粒率を高めてしまうので注意する。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>葉色(葉色板)</th> <th>施用量(N kg/10a)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">2回目</td> <td>5以下</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>5～6</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>6.6超</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	葉色(葉色板)	施用量(N kg/10a)	2回目	5以下	2	5～6	1	6.6超	0	
区分	葉色(葉色板)	施用量(N kg/10a)											
2回目	5以下	2											
	5～6	1											
	6.6超	0											
赤かび病防除	<p>【防除時期、薬剤】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>時期</th> <th>薬剤、使用量、使用時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>開花期(出穂期の5日後)</td> <td>トップジンM粉剤DL 4kg/10a 収穫14日前 ワークアップ粉剤DL 3kg/10a 収穫14日前</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>1回目の7～10日後</td> <td>(上記以外にも適用薬剤はあります。病害虫防除だよりを参照。)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(出穂期は全茎の40～50%が出穂した日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 出穂後、開花期に平均気温が15℃以上で降雨が続くときに多発する。被害粒混入限度0.0%を超えると出荷できない。 適期に作業できるように防除の準備を進めておく。 		時期	薬剤、使用量、使用時期	1回目	開花期(出穂期の5日後)	トップジンM粉剤DL 4kg/10a 収穫14日前 ワークアップ粉剤DL 3kg/10a 収穫14日前	2回目	1回目の7～10日後	(上記以外にも適用薬剤はあります。病害虫防除だよりを参照。)			
	時期	薬剤、使用量、使用時期											
1回目	開花期(出穂期の5日後)	トップジンM粉剤DL 4kg/10a 収穫14日前 ワークアップ粉剤DL 3kg/10a 収穫14日前											
2回目	1回目の7～10日後	(上記以外にも適用薬剤はあります。病害虫防除だよりを参照。)											

【天気予報】

日付	19 木	20 金	21 土	22 日	23 月	24 火	25 水
福井県	雨のち曇 	晴時々曇 	曇時々晴 	曇一時雨か雪 	曇時々雪か雨 	曇一時雪か雨 	曇
降水確率(%)	-/70/70/2 0	20/10/10/ 0	20	50	70	60	30
信頼度	/	/	A	C	B	C	B
福井	最高(℃)	16	15 (13~18)	13 (10~15)	8 (6~11)	9 (7~14)	14 (10~18)
	最低(℃)	/	7	5 (3~8)	4 (2~7)	2 (0~3)	1 (-1~3)

3月19日5時発表

気象庁 気象統計情報(各種観測データ)
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>

【メールマガジン e農メール】

e農メールの登録については、こちらをご覧ください。
http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/a_mail.html
 携帯電話ではQRコードで簡単アクセス



【現地の生育状況】

品種：ファイバースノウ

	地区	福井	坂井	奥越	丹南 (南越) (丹生)		二州	若狭	県全体
	調査日 (下段は昨年)	3/7 (3/6)	2/22 (2/19)	(3/1)	2/24 (2/20)	3/5 (2/20)	2/18 (2/20)	(2/20)	2/26 (2/23)
草丈 (cm)	本年	17.2	12.4		20.3	20.6	18.3		17.7
	昨年	18.2	15.4	14.3	15.0	13.7	13.4	11.8	14.5
茎数 (本/m ²)	本年	544	455		754	615	537		581
	昨年	596	724	525	577	542	920	500	626
葉色 (SPAD)	本年	43.9	50.5		40.4	45.6	42.6		44.6
	昨年	44.3	48.2	43.2	46.7	43.0	44.4	48.0	43.2

地区ごとの調査数、調査場所は年度ごとに変動がある。

